

## 答辞

校舎の窓から見える雪も溶け始め、桜の蕾も膨らみ始めるこのよき日に、私たちのために盛大な式を挙げて下さり、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中、ご出席いただきましたご来賓の皆様、保護者の皆様、式の準備をしてくださいました先生方、在校生の皆さん、中学生の皆さんに卒業生一同、心から感謝申し上げます。

楽しいこと、辛いことを共に経験してきた仲間や、熱心に私たちを指導してくださった先生方と過ごした三年間は挑戦すること、新しい自分を見つけることができた時間です。

三年間をマネージャーとして過ごした野球部では沢山のことを経験できました。最初は、部員の気がつかないところまで視野を広げられず、練習しやすい環境を作ることや、部員の表情に目を向けて声がけすることがうまくできず悩んでいた日々。それでも、必死に高みを目指す部員の姿を見ているうちに、目の前のことに懸命に取り組んでいる自分がありました。

長根球場に全校が集まり、二高カラーに染まった応援席、なんともいえない空気感のベンチでスコアを書きながら勝利を必死に願っていたあの試合。みんなの笑顔の花が咲き誇った瞬間の喜びは、決して忘れることはできません。こんなにも本気でできたのは、精神面を強くしてくれた顧問の先生、私を沢山笑わせてくれた部員、嫌だと一言も言わずついて来てくれた四人の後輩マネージャー、応援するだけでなく、一緒に仕事もしてくれて私を自分の子のように愛してくれた保護者の方々がいたおかげです。すべての方への感謝の想いはつきることはありません。部員の一人として三年間を部活に捧げた毎日は私の宝物です。

さらに、受験という大きな壁が私を成長させてくれました。休日も関係なく毎日登校してきた半年間。自分の知識が足りず、思うように書けない志望理由書や小論文に苦戦し、悔し涙を何度流したかわかりません。面接練習でも、伝えたいことはあるのに言葉にできず、将来の夢さえも伝えることができなくなりました。それでもやりきりたいという気持ちは揺らぐことなく、毎日自分自身と戦っていました。目の前に迫った受験が大きなプレッシャーになったこともありました。それでも、同じ夢を共に目指し、時には涙し、励ましあった友達、受験に追われ周りを見ることができなかった私をしかり、夜遅くまで粘り強く教えてくれる担任の先生が力を貸してくれました。これまで携わってくれた沢山の人の思いが込められた「がんばれ。」の4文字はそれぞれの思いがこめられ、私の糧になりました。担任の先生がかけてくれた「周りの人への感謝の気持ちだけを大切にしろ。」という言葉の意味を受験で強く実感することが出来ました。

ここまでの道のり、私の周りには強い味方がいたおかげでさまざまな経験ができました。みなさんに「ありがとう。」と伝えても伝えきれません。

口数は少ないながらも陰で応援してくれたお父さん、一番の理解者であり、部活や受験で二人三脚を続けてくれたお母さん。本当にありがとうございます。いつか、親孝行できるように頑張ります。

さらにさまざまなことを教えてくれた、校長先生をはじめとする心温かい先生方がいたおかげで、私たちは毎日充実した高校生活を送ることができました。

本日は残念ながら出席できなかった在校生の皆さん、中学生の皆さんに伝えたいことがあります。自分がやりたいことがあったら、諦めないで挑戦するべきです。『必ず』という言葉はありませんが、そこまでの道のりが自分を強くさせてくれます。二高のみなさんが多くの人に応援され、笑顔あふれるものであってほしいと思います、何かの形で伝わることを願っています。

昨年、平成から令和へと新たな時代になったように、私たちも卒業を迎え、四月からは新しい道歩んでいきます。これまで毎日のように「おはよう。」「また明日。」と当たり前と言っていた仲間とはお別れです。別れと同時に新しい未来が待っています。それぞれが思い描く未来は、現実とは違うかもしれませんが、それでも、そのとき出会う人への感謝を大切にし、諦めず日々前進することができたなら、何かを掴むことができるのではないのでしょうか。そして、遠回りでもきつと夢へ着実に、一歩一歩近づいていけると私は思います。

最後になりますが、今までお世話になった先生、家族、友達、在校生、中学生の皆さんに感謝し、すべての方々の幸せがこれからの未来に訪れることを願い、答辞とさせていただきます。

令和二年三月二日

第四十五回卒業生代表

齊藤 遥